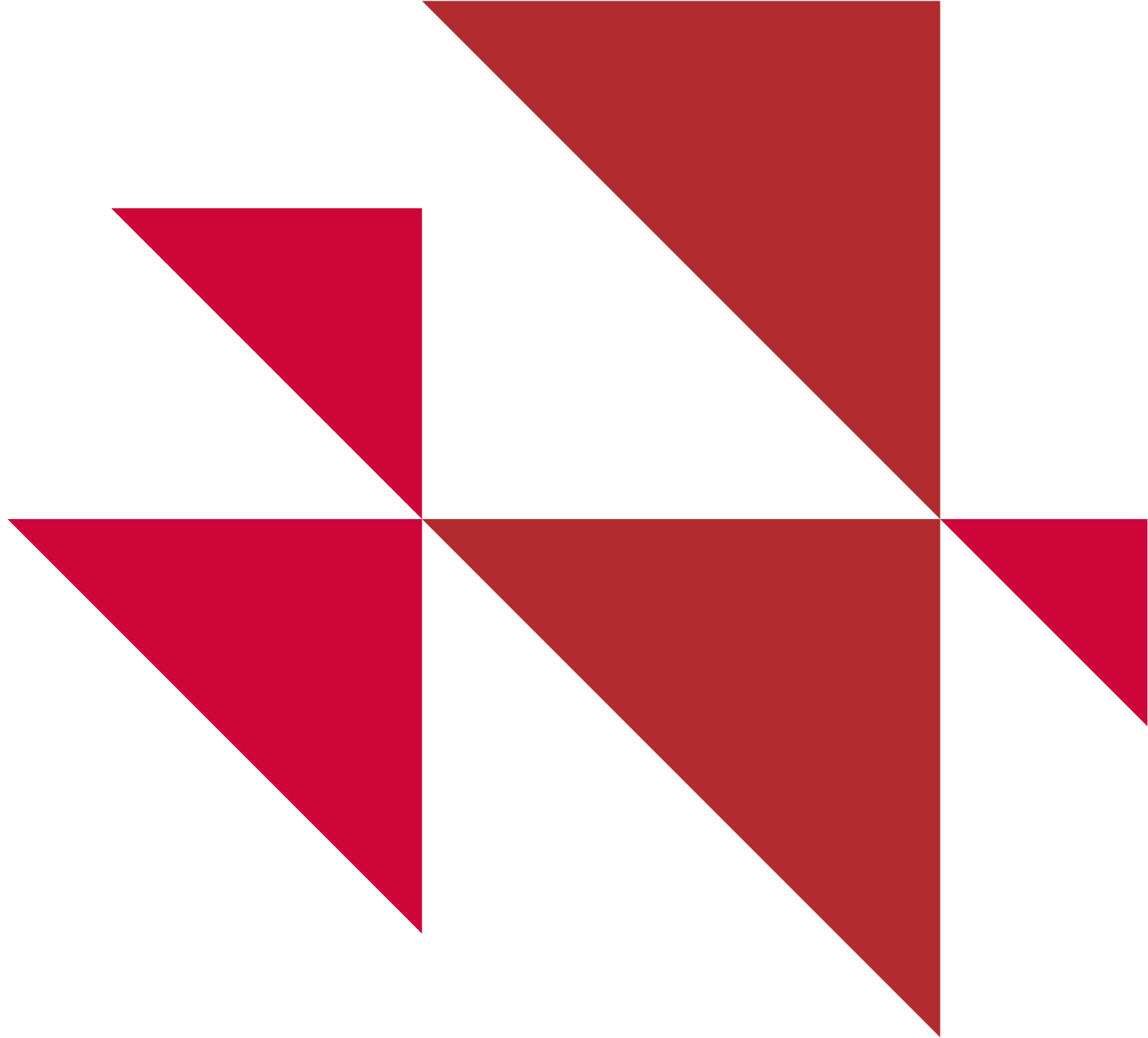


CDP2021 3つのCDP質問書概要

CDP Worldwide-Japan
2021年5月27日時点



TCFDに準拠した開示



2017年TCFD勧告発表



2018年CDP質問書 – TCFD準拠



2020年CDP質問書 –すべてのセクターに対応し、TCFD準拠完了

気候変動		水セキュリティ	フォレスト
<ul style="list-style-type: none">農産品食料・飲料・タバコ製紙・林業石炭電力石油・ガスセメント化学金属・鉱業	<ul style="list-style-type: none">鉄鋼輸送機器製造（OEM）輸送機器製造（エンジン部品）輸送サービス不動産建設資本財金融サービス	<ul style="list-style-type: none">食料・飲料・タバコ電力石油・ガス化学金属・鉱業	<ul style="list-style-type: none">石炭金属・鉱業製紙・林業 <p>※石炭、金属・鉱業はセクター別のスコアリング基準なし</p>

2021CDP気候変動 - 質問書全体の構造



モジュール	内容
C0 基本情報	企業概要, 報告年, バウンダリ設定
C1 ガバナンス	気候関連課題の社内での扱い、体制
C2 リスク・機会	自社にとってのリスク・機会の詳細
C3 事業戦略	事業戦略・財務計画への反映, シナリオ分析・低炭素移行計画について
C4 目標と実績	削減目標や削減活動による削減実績
C5 排出量算定方法	温室効果ガスの算定方法 (C6, C7回答の基準)
C6 GHG排出量	スコープ1, 2, 3の排出量
C7 排出量詳細	C6回答の国・ガス種・部門・拠点別等による分類
C8 エネルギー	エネルギー消費, 低炭素エネ消費量の報告
C9 追加指標	部門別に生産量や関連指標の報告
C10 第三者検証	スコープ1, 2, 3(等)の第三者検証
C11 カーボンプライシング	炭素税・排出量規制, 内部的カーボンプライシング
C12 エンゲージメント(協働)	サプライヤー, 顧客, その他への気候関連のエンゲージメント(協働)活動
(C13/C14)	(農業・食品等・林業製紙業／金融セクター向けの質問)
C15 サインオフ	回答についての最終承認者記載

気候変動質問書 – 取組のポイント



ステップ1

スコープ1, 2排出量／原単位

C5, 6

+C7, 8

把握できる範囲で回答する

気候変動リスクと機会

C2

リスクや機会があるかないか

ステップ2

スコープ1, 2排出量／原単位

C4, 5, 6

+C7, 8

完全なデータを回答する
排出削減目標を設定する

気候変動リスクと機会

C2

リスクを特定して開示

気候変動課題に対する責任者

C1

顧客やサプライヤーとの
エンゲージメント

C12

スコープ1, 2排出量 (C5~8)

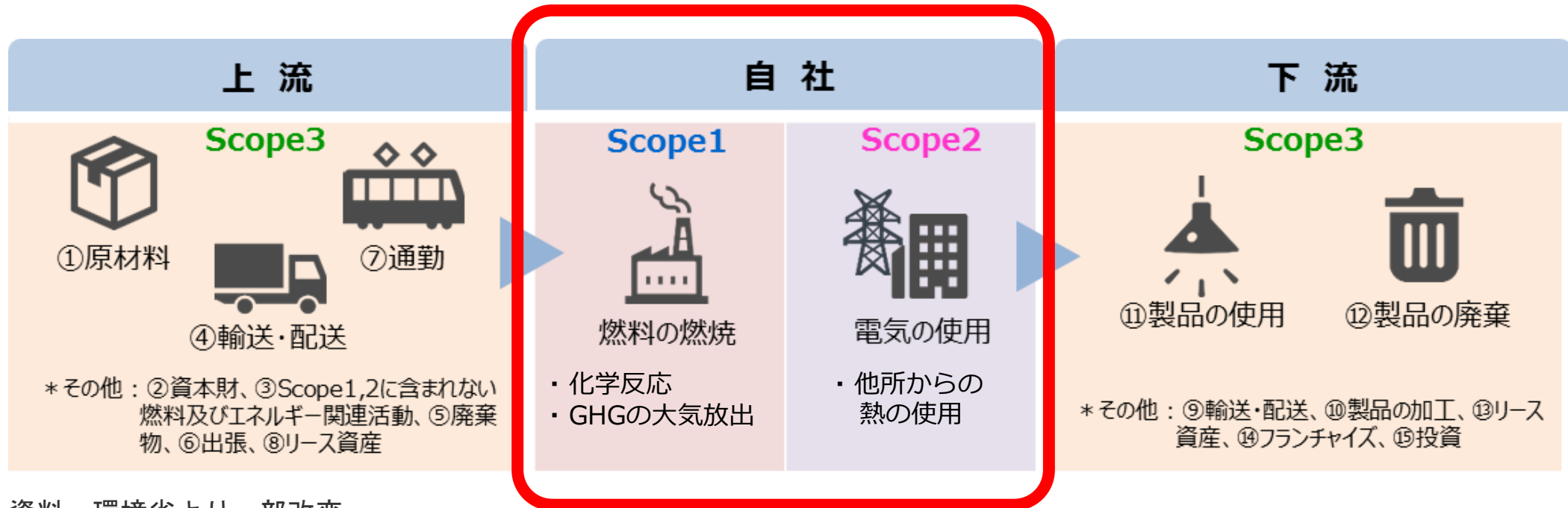
スコープ1 (直接排出)

- 自社設備で**燃料燃焼**、**化学反応等**によって**直接排出**した二酸化炭素、他の温室効果ガス。

スコープ2

(エネルギー由来の間接排出)

- 外部から購入した電気などの二次エネルギーが作られる際に排出した二酸化炭素(等)。



GHG削減目標 (C4)

▼ 総量目標

目標年において、基準年の排出量から一定量を削減する

(例) 製造部門のスコープ1,2 (全社のスコープ1,2の80%) に対して、
↳ 目標対象範囲 ↳ 対象スコープ ↳ 目標対象排出量割合

2030年に、2005年の排出量 (1,000,000tCO₂e) から30% 削減
↳ 目標年 ↳ 基準年 ↳ 基準年排出量 ↳ 目標値

という目標を、2015年に設定した。
↳ 目標設定年

▼ 原単位目標

目標年に対して、基準年の排出原単位から一定量を削減する。

例：売上高あたりの排出量を、2030年に2010年比20%削減

気候変動リスクと機会（C2）



特定

潜在的なリスク・機会の洗い出し

評価

洗い出したリスク・機会の将来的な影響度や頻度等を考慮した分析

対応

分析結果を考慮した対応

C2.2で回答

C2.3aで回答

【例】

特定：毎年各拠点の施設長から、洪水や高温など気候変動関連の被害の情報を収集して、拠点別にリスクを洗い出す。

評価：報告された被害額や対応コストを基に、金銭的な影響からリスクの程度を評価する。

対応：このプロセスによって、リスクが大きいとされた〇〇事業所では、洪水防止のための防水壁を設置した。

気候変動リスクと機会（C2）



移行 リスク	リスクの種類	
	現在の規制	
	新たな規制	
	技術	
	法的	
	市場	
物理的 リスク	評判	
	緊急性の物理的リスク	
	慢性の物理的リスク	

現在の規制
例：・省エネ・低炭素化に関する規制
・気候変動適応に関する規制・法

新たな規制
例：・カーボンプライシングメカニズム（排出量取引・炭素税）
・企業活動や既存の製品等に対する新たな命令および規制

技術
例：・既存の製品・サービスをCO2低排出のものに置換
・低排出技術への移行

法的（訴訟）
例：・企業間の法的論争
・住民からの訴訟

顧客やサプライヤーとのエンゲージメント（C12）



サプライヤーエンゲージメント

- ▼ コンプライアンス・研修
（例）サプライヤーの排出削減を促進するため、省エネ行動に関する研修を実施
- ▼ 情報収集
（例）サプライヤーから排出量情報を収集
- ▼ エンゲージメント・インセンティブ付与
（例）排出削減を達成したサプライヤーを表彰する
- ▼ 技術革新・協力
（例）低炭素技術を共同で研究開発する

顧客エンゲージメント

- ▼ 教育・研修
（例）自社の低炭素製品の削減効果をアピールするためのキャンペーン実施
- ▼ 技術革新・協力
（例）気候変動影響を協力して低減するためのキャンペーン実施

2021フォレスト質問書 – 構成



2021 モジュール	主な内容
F0 はじめに	会社の概要、報告年、通貨、バウンダリ、開示コモディティ情報
F1 現状	コモディティの生産／調達／消費／販売の方法・量、コモディティ生産地情報
F2 手順	森林関連リスク評価・考慮される要素
F3 リスクと機会	森林関連リスク・機会
F4 ガバナンス	経営層の責任・監督、森林関連方針、森林減少／劣化防止の誓約
F5 事業戦略	事業計画／財務計画
F6 実践	目標、トレーサビリティ、第三者認証、誓約、法令順守、サプライヤー／小規模農家との協働
F7 検証	森林関連データの第三者検証
F8 障壁と課題	森林減少に対応する際の課題
F17 最終承認	回答承認者の情報

フォレスト質問書 – 取組のポイント



ステップ1

F1

森林リスクコモディティの利用状況

自社やサプライチェーンでの生産／調達状況を把握できる範囲で回答する

F2

森林減少リスク

リスクや機会があるかないか
評価を開始

F4

サステナブルな調達方針

まだ方針はないが、そのことを開示

ステップ2

F1

森林リスクコモディティの利用状況

自社やサプライチェーンでの生産／調達状況を詳細に回答する

F2, 3

森林減少リスク

リスクや機会を特定し、開示

F6

サステナブルな調達方針

- ・ 認証材の利用
- ・ サステナブル調達やトレーサビリティ目標の設定
- ・ サプライヤーとのエンゲージメント

森林リスクコモディティとは



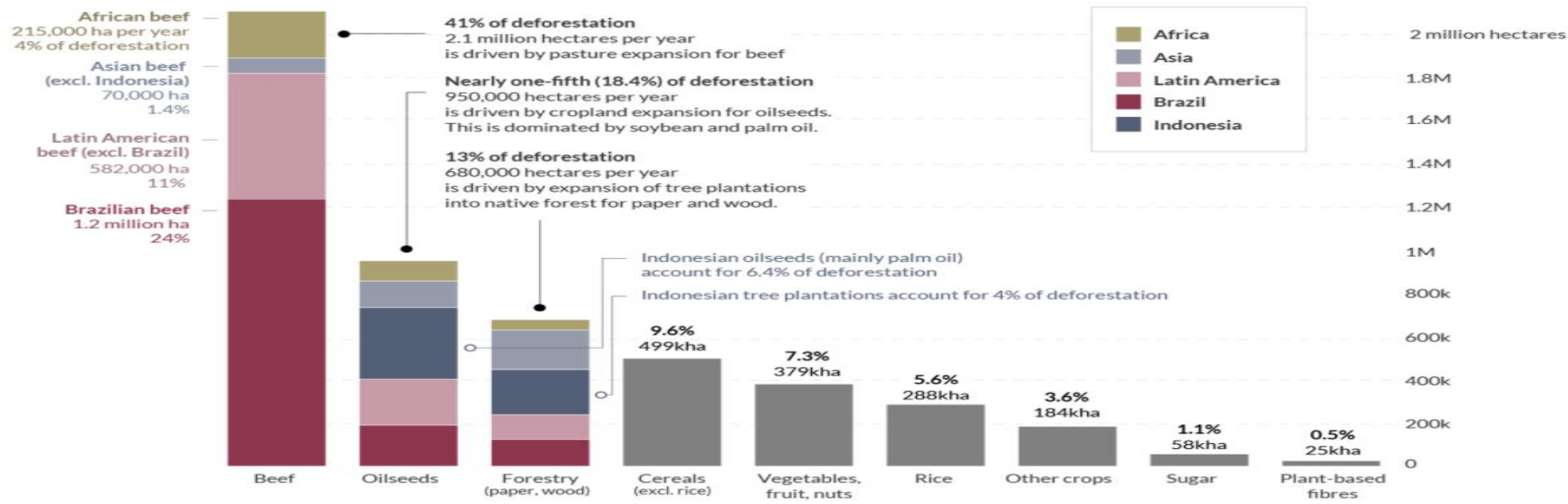
拡大する森林減少

森林（天然林・人工林）の消失面積
≒ 1秒にサッカー場1面（2020年）



森林減少の80%は
農地への転用が要因
(出典：FAO)

<熱帯雨林の減少の要因となるコモディティ>



畜牛 パーム油 林業
大豆

森林リスクコモディティの調達状況



目的

森林減少の要因となっているコモディティについて、どのような地域から、どのように調達しているかを開示

例1：木材製品（家具等）を製造している

- コモディティ = 木材
- 事業活動 = 製品製造への投入物として使用
- コモディティの形態 = 加工木材
- 調達先 = サプライヤー（加工業者）
- 木材の原産地 = カナダ
- 調達コストの割合 = 5%

例2：食料品を販売している

- 木材：容器包装で利用
- パーム油：食品用の油脂として含まれている製品を利用
- 畜牛品：牛肉を利用
- 大豆：大豆そのもの／大豆油脂を利用した製品を利用

把握できるものから開示する

なぜ自社がフォレスト質問書の対象になっているのか不明な場合はご相談ください（固有の事業形態等を考慮して対象の有無を再確認します。）

森林減少リスク（F2）



リスク評価で考慮する問題

森林リスク・コモディティの入手可能性
森林リスク・コモディティの品質
事業活動による生態系や生息環境への影響
規制
気候変動
水セキュリティへの影響
関税または価格上昇
市場の喪失
リーケッジ市場
森林リスク・コモディティに関連したブランドダメージ
汚職・不正
社会的影響

リスク評価で考慮する ステークホルダー

顧客
従業員
投資家
地域社会
NGO
地域レベルのその他の森林リスク・コモディティの使用者/生産者
規制機関
サプライヤー

森林減少リスク（F3）



市場の喪失 × 顧客

（例）消費者の環境意識の高まりから、認証取得を進める必要があり、まだ認証材の導入が進んでいない当社は売上が減少する

規制 × 規制機関

（例）パーム油の調達先である〇〇地方は、森林回復の義務の規制が課せられるようになり、そのためのコストが調達費に上乗せされる

気候変動 × サプライヤー

（例）当社サプライヤーが木材を調達しているロシアでは、気候変動による森林火災が多発しており、安定的に木材を調達できない

ブランドダメージ × NGO

（例）当社が木材を調達している地方において、NGOの調査により違法伐採が判明し、調達している当社も批判を受けた

サステナブル調達に向けた活動（F4, 6）



サステナブル調達方針の策定（F4）

- 生態系保全
- 森林減少ゼロ
- 調達基準...etc.

サステナブルなコモディティ利用（F6）

- 認証材の利用（FSC, RSPO, RTRS...）
- トレーサビリティ確保
- サプライヤー（一次・二次・小規模農家）とのエンゲージメント

【認証材の目標例】

2025年までに利用している包装紙の80%をFSC認証紙にするという目標を2020年に設定

- コモディティ = 木材
- 目標のタイプ = 第三者認証
- 第三者認証スキーム = FSC
- 開始年 = 2020年
- 目標年 = 2025年
- 定量指標 = パーセンテージ
- 目標 = 80%

F6で回答

2021水セキュリティ質問書 – 構成

2021 モジュール	主な内容
W0 イントロダクション	会社の概要、報告年、通貨、バウンダリ
W1 現状	水の依存度、水のアカウンティング（水のモニタリングの割合、取水量・排水量・消費量の合計値、水ストレスの大きい水域での取水量、リサイクル・再生水の割合）、バリューチェーンでの協働
W2 事業影響	報告年における水による事業への影響、水規制違反により受けた罰則
W3 手順	水リスクの評価方法の手順・考慮される要素
W4 リスクと機会	水リスクのある施設数・内容等、水関連リスクと対応、水によりもたらされる機会
W5 施設レベルの水会計	水リスクのある施設レベルの水に関するデータ
W6 ガバナンス	水関連方針、マネジメントの責任、政策への関与と整合
W7 事業戦略	事業計画、設備投資費/操業費、シナリオ分析、ウォータープライシング
W8 目標	水関連目標と達成に向けた進捗
W9 検証	水情報に関する外部検証
W10 承認	回答承認者の情報

水セキュリティ質問書 – 取組のポイント

ステップ1

水への依存度

W1

自社とバリューチェーンでの、淡水・淡水以外の利用状況を把握できる範囲で回答する

水のモニタリングと測定

W1

取水と排水のモニタリングと測定（可能な範囲で）

水リスク

W3

リスクや機会があるかないか評価を開始

水のサステナブル方針

W6

まだ方針はないが、そのことを開示

ステップ2

水のモニタリングと測定

W1

- ・ 総取水量、総排水量、総消費量を測定
- ・ 水ストレス地域にある施設の特定

水リスク

W4

流域レベルの水リスクの特定

水関連目標の設定

W8

水の種類／水の依存度（W1.1）

淡水

- 雨水、湿地、河川、湖、地下水などの淡水

リサイクル水、汽水、随伴水

- 汽水：塩分濃度が比較的高い水（海水は含まない）
- 随伴水：石油掘削などにより地下から表出してきた水



直接操業

- 自社のオペレーションにとって重要かどうか

間接操業

- サプライヤーや顧客にとって重要かどうか

重要かどうかは、**質・量**の観点から自社の基準で判断する

水の種類／水のモニタリング（W1.2）

取水

河川取水・工業用水・海水など、自社のバウンダリ外から取水したもの

- 総取水量
- 水源別取水量
- 取水の質

排水

自社のバウンダリ外へ排水したもの（蒸発も含む）

- 総排水量
- 放流先別排水量
- 処理方法別排水量
- 排水基準別
- 温度

水の消費量

- 総消費量

使用され、元の取水
源に戻されないもの

可能な限り各項目をモニタリング

水の総消費量

=

総取水量

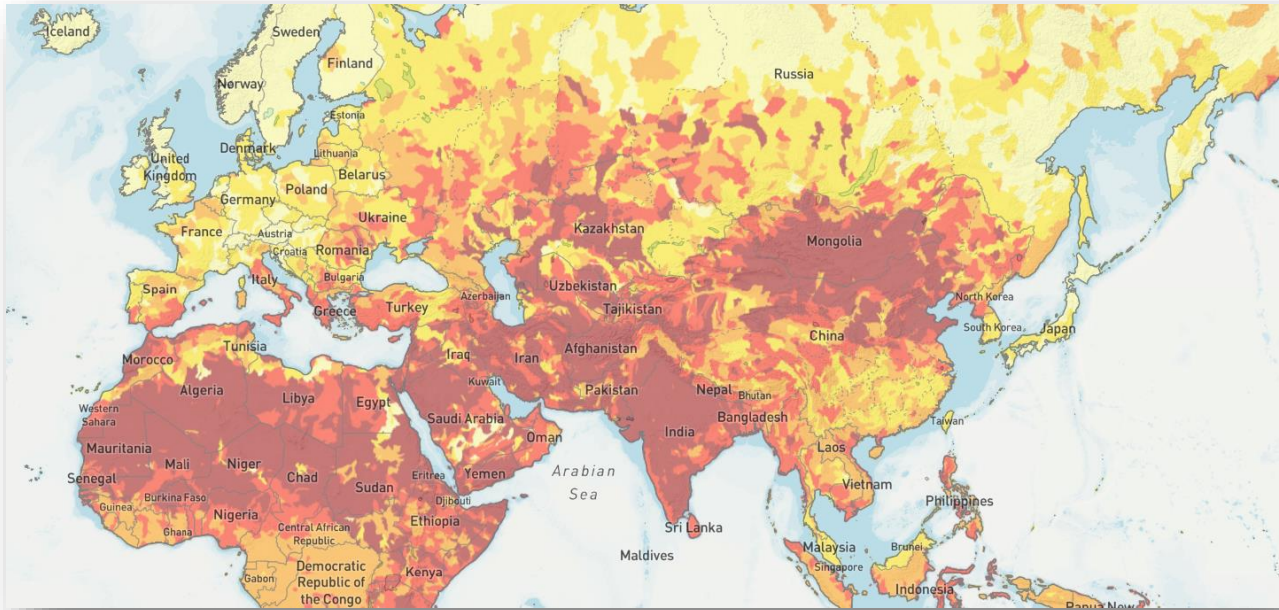
－

総排水量

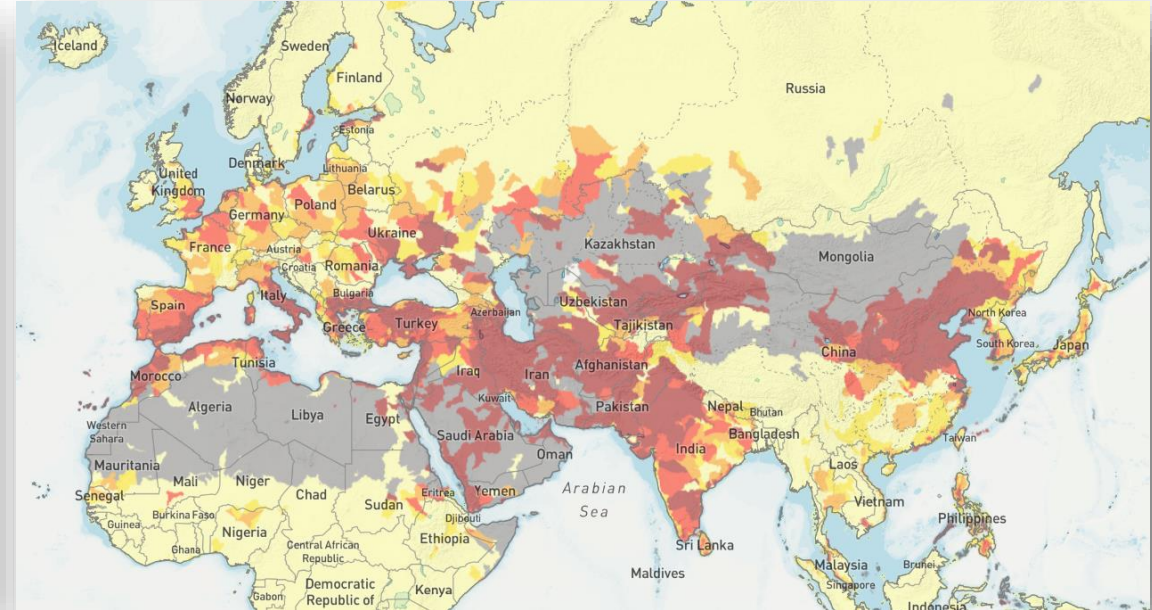
水リスク (W3,4)

水リスク評価ツール例：WRI AQUEDUCT <https://www.wri.org/aqueduct>

現在



2030年



環境行動のための組織ガイド



ステップ1 初期

組織が環境行動をとるためのスタート地点
= 情報開示の開始

ステップ2 発展

自らの環境影響を理解し始めるとともに、環境行動へ向けて、目標設定や環境リスクの特定といった最初の一步を踏み出す

ステップ3 成熟

専門的で詳細な行動計画とともに環境データが事業戦略に完全に組み込まれ、明らかな進歩が見られる

ステップ4 ベストプラクティス

取締役会レベルでの監視、科学的根拠に基づく排出減目標の承認、あらゆる組織レベルで環境スチュワードシップを主導することにより環境分野のリーダーとなる

CDPのスコアリングにおける重要な点



- ▼ スコアリングは、回答欄に記載された内容にのみ基づいて実施されます。
⇒ 外部URLの参照、資料の添付（一部質問を除く）、他の回答欄を参照しなければならない回答等は評価には反映されません。

NG回答例

- ・「当社のリスク管理活動の詳細については、ウェブサイト（<http://www ~~~>）をご覧ください。」
- ・「詳細は質問〇〇への回答内容を参照のこと」

- ▼ 無回答欄が多い場合はスコアが低くなってしまいます。
 - **Please explain**や**Description**は必ず記入してください。
 - 数値記入欄において、空欄とゼロを回答することは意味が異なります。不明な場合は空欄のままで、把握していてゼロの場合はゼロと記入してください。
- ▼ 下位レベルで一定のスコアを満たしていないと、上位レベルのスコアが0になる質問があります。

CDPが提供している主な資料（リンク集）



- ▼ よくあるご質問（FAQ）
- ▼ 回答ダッシュボード使用方法（アカウントの作成など）
- ▼ オンライン回答システム使用方法
- ▼ スコアリングイントロダクション
- ▼ 気候変動・水セキュリティ・フォレスト質問書
- ▼ 各質問書に関するガイダンス資料・スコアリング基準
- ▼ 各質問書に関するウェビナー（動画・資料）
- ▼ 各質問書の前年からの変更点
- ▼ 公開されている他社回答へのアクセス
- ▼ 日本語版気候変動・水セキュリティ・フォレスト報告書
- ▼ CDPジャパンが開催するセミナー情報（過去の録画・資料含む）



CDPジャパン事務局

Address: 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル3階



Tel: +81 (0)3 6225 2232



www.cdp.net/ja/japan (日本語サイト)



一般的なお問合せ : japan@cdp.net

サプライチェーンに関するお問合せ : supplychain.japan@cdp.net

レポーターサービスに関するお問合せ : reporterservices.japan@cdp.net